



空のちかく

2012春

ウラ表紙の話



つるぎ町には、吉良のエドヒガン桜をはじめ、たくさんのお花見スポットがありますが、今回ご紹介するのは、貞光太田紫内の 桜堂とひょうたん桜です。

かく筒と呼ばれる部分の形がひょうたんに似ていることから、ひょうたん桜と呼ばれています。開花間近のぶっくりとふくらんだつぼみがすずなりになっている様子は、まるで小さな千成瓢箪のようです。

現在ある桜の以前にも桜の古木があったので、お堂は古来より地域の方々から桜堂と呼ばれて親しまれてきました。お堂の中には不思議な言い伝えの残る二体の観音様がおまつりされています。

今からおよそ450年ほど前、長宗我部元親が四国を平定した際、各地の神社仏閣を焼き払いました。そのときお堂は今の場所から50mくらい上の場所にあったのですが、観音様が飛んで下の方へ逃げたそうです。そこで、村人がお堂を建てて北向きにおまつりました。ところが、今度は吉野川を通行する帆掛舟が太田川付近で立ちすくんで動かなくなるということから、現在の位置にお堂を移し南向きにおまつりし直したそうです。

今でも観音様には少し焦げたあとを見ることが出来ます。お花見をしながら、遠い昔に思いを馳せてみるのも趣き深いかもれませんね。



発行：六花社 2012年3月

take free ご自由にお持ち帰りください

tel 090-1176-3526